

## 円山川への想い

(第2回委員会：平成15年6月17日：提示資料)

「このような円山川であってほしい。」など、あなたの「円山川への想い」について、また、その実現に向けてのアイデアなど、自由にお書きください。

### **委員の意見、想い：No.1**

大学時代の親友の一人が豊岡高校の出身であったりして、但馬・円山川には大学時代やそれ以前から親近感を抱いていましたが、円山川に頻繁に接するようになったのは、やはり、昭和63年ごろにリバーカウンセラーの制度ができて、担当をさせて頂くようになってからです。

当時、河川環境の重要性が一般に認識されるようになって、「河川環境管理計画」が「河川計画」の一部として、公式に議論され始め、「河川環境空間管理計画」が順次策定されていました。

その時の円山川のいわゆるキャッチフレーズは、「歴史と自然のハーモニー・円山川」であったと記憶していますが、これは今でも日頃、目にする円山川の姿をよく表していると感じています。その折に、雪景色の山を背後にした円山川をボートで行き来したときの感動は未だに忘れることはできません。

一方で、この地が河川工学の先達を輩出されたことは、水害の厳しさとも無関係ではないと思います。河川の安全はそこに住んでいる人間である以上、河川に一番に求めることであると思います。勾配のかなり急な本川上流部や周辺の支川の水を集めて低平地を流れる大臣管理区間の円山川において、洪水時の安全を確保することは困難な事業であることは間違いありません。

しかしながら、先人の努力によって、円山川の安全性は高められてきていると確信され、それを継承して、少しでもその安全性を高めることのできるような川づくりに向かっていきたいと思います。

中規模から大規模までの日本の河川は、洪水時の流量が平水時の流量に比して極めて大きいため、平水時の水域面積の何倍にも及ぶ広い空間を与えています。これが、経済社会の発展で地域の姿が大きく変貌しても、河川やその周辺に多少とも自然が残されてきた最大の理由であると考えています。

いかに、堤防が築かれる前には、洪水時の河川の広さ（浸水域の広さ）は洪水の規模に応じて変化したので、現在よりももっと河川は大きかったと思われるかもしれませんが、あまり冠水しない（冠水頻度の低い）ところは様々に利用されていて、そのような場所は河川敷とは認識されていませんでした。

最近見直しもされる機運にありますが、農地やそれを支える施設の姿も変化して、その周辺の水辺の姿が大きく変わり、それだけに河川に残された自然への期待も高まっています。円山川の川づくりはその期待にも可能な限り応えていけるものであるべきであると思います。

「円山川の現在の、あるいは、かつての姿のこの部分が、また、この組み合わせが、こうした生物にこのような環境を与えていた」といったことの情報が蓄積されていくと川づくりに対して大きな助けになるに違いありません。

円山川の水は野生生物に利用されるとともに、農耕や都市活動に欠かせない用水として、多くの人々に役立っています。無降雨状態が長く続いたときでも、この機能に障害を来さないだけの余力を持つことも円山川には期待していますが、このようなことを可能とする条件を考えることの方が重要であるのかもしれない。

### **委員の意見、想い：No.2**

【こんな円山川であってほしい。】

- ・水がきれいで魚が多く生息する。捕れた魚を誰もが抵抗なく食べられる川。
- ・コウノトリやサギなどの鳥が多く遊ぶ川
- ・川の中に河原があり、その河原へ簡単に入れたり、川岸に簡単に近づける川。
- ・子供たちや大人でさえも、川の中や川岸で遊ぶ姿の見られる川。
- ・台風や豪雨の時も川の様相を変えない穏やかで安全な川。

【そのためには】

#### 1. 水をきれいにするための対策

流域における森林の整備と保全

サケの放流活動の復活。兵庫県・豊岡市が進める「コウノトリを再び野に帰す取り組み」に対し、川や水からみた場合のシンボルとして、サケの放流を復活していただきたい。

#### 2. 環境整備

川に簡単に入れるような堤防の整備

河原の整備。昔河原だったところが、年々ヨシに覆われて行きます。ヨシを除去して河原を復活していただきたい。特に円山川運動公園の近く。河川内へゴミを投棄しない、流さない運動の展開。また、流された場合の撤去。

流域地域住民における清掃作業の実施

「但馬5万人グリーン作戦」の円山川版

### 3. 穏やかで安全な川

流域における森林の整備と保全が実現できた時の効果は大きいと思います。

### 4. イベント活動の実施

既に国土交通省主催でイベントが実施されていますが、そのイベントの中に釣り大会を考えていただきたい。

円山川下流域におけるアユ釣り大会

豊岡市立野廃川における釣り大会

円山川漁協の絶大なる御協力が必要と思われます。

### **委員の意見、想い：No.3**

コウノトリをテーマとしたNHK番組を見て豊岡盆地の人と自然のあり方に感動し、また牛と人とコウノトリのポスターを見て何とも言えない豊かな気持ちになりました。

水害の危険性や地盤沈下など解決しなければならない問題は多々ありますが、私はランドスケープデザイン分野ですので、まず「風景としての円山川」をイメージします。川が自分でその姿をつくれるような土地のゆとりを大切にしたいものです。

京都の鴨川も治水上の問題をかかえながらも美しい川の風景を保全、創造することや川がもつ文化性を大切にしようとしています。円山川本来の風景ののびやかさを損なわない河川改修であってほしいと思います。円山川の持つ風景の特徴、キーワードを洗い出す必要があるでしょう。

### **委員の意見、想い：No.4**

コウノトリやアオサギなど自然の動植物と共生できる川であってほしい。コウノトリ帰生計画などビオトーププランは大変好感を受けています。そうした川づくりを願っている。

利水について、大変唐突ですが、30年ほど前に「円山川と市川を集結し、日本海と瀬戸内海の水路計画」たる記事を読んだことがある。日本海開発に欠かせる国家事業との内容だったので、今、再検討に値しないかと思いついている次第です。

水の利用量は将来に向けて増す一方。但馬の水量を播磨、阪神方面に活用可能になればと思う。

#### **委員の意見、想い：No.5**

人々の安全、安心なくして自然環境の保護は無いと考えます。

私たち下流域の住民は度重なる洪水により先祖代々より大きな被害を受けてきました。

円山川流域の下流部は勾配が緩く、改修に着手される前は、洪水のたびに蛇行し、川の流れを変え、田畑はもとより家屋の浸水も年数回、道路の冠水も恒例のように繰り返されてきました。

聖なる川もひとたび洪水になると鬼のような川に変貌するのであります。いくら自然環境に配慮すると言っても人々の安全、安心なくして円山川の未来はあり得ません。

今後、この流域委員会でも議論の中心になるであろう環境の保全と治水という相反する目的について委員の皆様には充分なご理解をいただき、より実りある委員会になれば幸いです。

#### **委員の意見、想い：No.6**

円山川をみて思うことは、人と川の関係が、一見切れてしまっているということである。例えば、円山川とその支流で人の姿を見ることはほとんどない。支流の六方川で遊んでいる子供を、一度も見たことがない。

もちろん、さまざまな面で私たちは円山川から恩恵を受けているが、その関係がとても見えにくく、いわばブラックボックスになっている。

見えにくくなった関係を見えやすくすることが課題ではないだろうか。その一つの方向性は地元住民が中心になって、何らかの形で円山川にかかわり続けることではないだろうか。かかわりがなくなれば、人にとってその場所はどうでもいいただの空間になってしまうのではないか。

円山川にかかわる回路を用意することが求められているのではないか。例えば、住民参加型の自然系・民俗系の調査を行なうことなどが考えられる。

#### **委員の意見、想い：No.7**

安全で、コウノトリが飛び交い、カヌー等のレジャーを楽しめるとともに、必要な水供給のできる円山川。

##### **【実現に向けてのアイデアについて】**

特にありませんが、思うことを羅列します。

治水について：堤防、遊水池、宅地かさ上げ 等々が考えられます。

レジャー対応：川へのアクセスポイントの整備

上記ことも含め、利水、環境については、現状を把握してから考えたいと思

います。

#### **委員の意見、想い：No.8**

円山川は、日本では数少ない傾斜が緩やかな河川だと思う。この景観を生かしたまま、流域の治水と河川管理ができれば良い。

#### **委員の意見、想い：No.9**

私の住む円山川下流地域は道路と川が並行に走り、川の様子を間近で見ると、危険な川だと云う意識が強く、子供たちに対しても「川の方へは行っては駄目」と云う禁止事項の1つに上がる約束があります。また護岸が整備されず、雑草も生い茂り不法投棄（瓶・缶の宝庫）となっています。

護岸・河川を整備することでごみが捨てにくい環境が出来れば不法投棄等々なくなるのではと思います。

自然と川と接する事の出来る円山川流域全域の自然公園化が出来れば、環境にも治水にも役立つ川になるのではと思います。

#### **委員の意見、想い：No.10**

私は豊岡市の出身で、小さい頃は小学校にプールがなく、円山川が夏休み中の水泳の場でありました。夏休みの午後に水泳をするために、父兄はまず川岸までと脱衣広場の草刈りをしてくれました。また水泳中はおぼれるモノがないかと交代で見張りの当番をしてくれました。何分間か川に入った後、休憩のための鐘もうち鳴らしてくれました。川面から空を見上げたとき、白い大きな入道雲が出ていたことを今でも思い出すことができます。

洗濯機が家庭に出回らなかった頃は、円山川が洗濯物の濯ぎの場所でもありました。そのころは「イト」（漢字を知りません）という場所が川沿いの各所にあり、石が積まれておりそこで母や姉が濯ぎをしていたことを覚えております。川の水が澄んでいたため、「イト」に集まってくる魚がたくさんおりました。一度、網を持って捕まえに行ったのですが、一匹もとれなかったことを思い出しました。

これら2つの体験は、円山川が毎日の生活の場であったこと、このため多くの人たちが協力して生活の場を守り、維持管理していたことを示してくれるものです。学校にプールができ、洗濯機が各家庭に普及し、生活の場から円山川が遠くなるにつれて、住民が力を合わせる協働作業もなくなってきたことが、よけいに川とのつながりを遠くしてしまったのかもしれない。

今では景観や環境が私たちと川との接点になったような気がします。眺める

川ではなく、水に触れることができる川、生活の中に水路としての川があるなら、もっと毎日の生活の中に川の大切さが実感できると思います。水路を縮小、短縮するのではなく、もっと数多くのネットワークを組んではいかがでしょうか。治水、特に内水氾濫対策としてのバッファーにもなると思います。

#### **委員の意見、想い：No.11**

直轄管理区間の上流地域（日高町中心）は、無堤箇所が多く（円山川の支流、稲葉川合流点）梅雨の長雨また秋雨、台風が同時になれば多くの恵みをもたらしてきた円山川は「母なる川」と慈しまれる反面、年中行事のように氾濫を繰り返して、生命、財産を脅かす暴れ川となる。安心、安全に暮らせるよう、1日も早く無堤地域の解消を望む。

#### **委員の意見、想い：No.12**

私の記憶にある昭和 20～30 年代の美しい円山川を取り戻したい。勿論当時の洪水による災害の記憶もある。それを防止せんがために繰り返された改修工事の結果が今日の河川の姿に結びついた訳だが、その河川利用、災害防止の方法が根本的に誤りであったとの認識で、再度昭和 20～30 年代の原点に立ち帰って円山川の再生に取り組むべきだと考える。

その際、最も重視されるべきは流域全体の森林、原野、圃場、草地等々の保つ保水機能と思われる。河川本体の流水量のみに注目してこれを管理せんとすれば、最後の誤りを再び繰り返すことになる。

また 50 年、100 年単位の大洪水を災害防止の基準とするのが常識とされる昨今の風潮も再考せねばならない。

ある程度の災害は覚悟の上で、自然との折り合いをつけるのでなければ、改修を際限なく続けねばならず、果ては予期せざる大災害の原因を自ら作り出すことにもなりかねない。

こうした河川のあり方については国の専門機関ですでに十分な研究がなされつつあり、河川行政にもそれは反映されつつあると思うが、目前の円山川とその流域を見る限り、源流から河口に至る一貫したプランの下に整備がなされているとは言い難い。

森林再生計画を含めた統一的で高度なプランの下に整備計画が策定され、新生円山川が生まれるのを期待したい。

そのためには、国、県、市町村など行政機関と住民、工事担当業者、専門家などが従来の枠を超えて議論する必要がある。

前途遼遠で多難な道程ではあるが、本流域委員会がその第一歩となるよう望

んでいる。

すでに欧米では過去の河川整備のあり方についての反省を元に、ダム撤去、近自然工法等々、最新の技術が実施に移されてきた。わが国としても、その成果をもっと積極的に取り入れ、更にその先に行く技術を開発すべきである。

#### **委員の意見、想い：No.13**

豊かな川の恵みを受けられるよう、水質や景観面でも優れ、生活の安全が守られ、水を利用する人々の暮らしが守られる川であってほしい。そのためには、やはり流域委員会規約2条に沿って、流域の人々の暮らしからの声をどのように河川整備に反映させられるのか、議論していくことが大切だなと思っています。

洪水氾濫を繰り返している河川であるだけに、環境を重視しつつ、治水安全度を高めていくには、どのような手立てがあるのか、考えていきたいと思えます。

#### **委員の意見、想い：No.14**

円山川の下流域は、他には見られない自然環境の中で風光明媚な姿をとどめている。この姿も保存するような方向で進んでほしい。

#### **委員の意見、想い：No.15**

第1回委員会での私の「情報提供」中、大保恵堤防に関し、述べた感想。「鉄壁の両岸堤防で川を封じ込めるのではなく、周辺地形や流量との関連において可能な限り妥協し合うことを思想」としたい。

#### **委員の意見、想い：No.16**

円山川の誇ることができる点は数多くありますが、その中で、景観と歴史性の面から、円山川の将来像についての観点を以下のように考えてみました。

##### 景観（風景）

円山川のもつ景観の特徴は、人の手の加わらない自然景観ではなく、地域の日常と密接に関連していることが感じられるような景観であり、その意味で、懐かしい典型的な風景であるといえる。

このような河川景観を将来にわたり、守り、育てていく必要があると考える。

##### 歴史性

戦後、日本における急速な都市化は、河川と流域を急激に変化させた。河

川改修による人工化だけでなく、流域の土地利用や人々の生活様式が急激に変化した。その変化があまりにも急速だったため、連続性が途絶えた結果、現在では、河川空間は過去から積み重ねてきた歴史的な多面性が失われ、単調な空間となってしまい、歴史の重層性が感じられなくなった。

円山川では、幸いにも、都市化の進行が比較的緩やかであったことから、昔の川と人とのつながりを想像させられるイメージがあり、また、豊岡市内の廃川のように、旧河道も残っている。これらのことが、円山川の河川空間から歴史的な重層性を感じさせられる所以である。

このことは、流域の人々が、物的・精神的さまざまな形で、円山川に日常的に関わりを有していることによるものではないかと考える。

しかしながら、このような古来から人々が有していた川との日常的な関わりあい、円山川においても次第に薄らいできている。

上記の観点から円山川の将来像を考えるならば、河川整備後の人と川との日常的な新しい関わりあいはどうあるべきかが、検討される必要があると思います。

その基礎的なこととして、流域住民の円山川に対する意識構造を詳細に分析してみてもどうかと考えます。

#### **委員の意見、想い：No.17**

自分が子供の頃（1960年代）の円山川がなつかしい。

人が川に近づく工夫。

川に生き物があふれる工夫。

棚田を復活し水張り休耕田を増やし、水を山から海へゆっくり流す工夫。

ゆっくり、ゆったり、生きていくライフスタイルの導入。

#### **委員の意見、想い：No.18**

ゆったりと蛇行して流れる円山川下流域。

ヤナギ河原、ヨシ河原の広がる河川敷の円山川下流域。

河畔林に包まれる円山川。

霧につつまれた円山川。

汽水域特有の水性生物を育み、希少生物の生育・生息する円山川。

下流域の洪水問題が論議されるが、この問題には上流域の森林や田、河川堤防の二面張りなど事業のあり方と標高1～3mという湿地帯の埋立て工事などの結果で拡大している。更に、低地帯への人口集中政策など人為的要素が多過ぎる。



#### **委員の意見、想い：No.19**

コンクリートと芝生の川ではなく、今ある豊かな自然環境を維持し、基本的な安全を守ることができる川。

##### **【今ある豊かな自然】**

ヤナギ林、河畔林、原野環境、湿地環境、汽水域、ヨシ原、各種の絶滅危惧種の存在

##### **【そのためには流域を含めた長期的な考え方が必要】**

上流域では保水力の確保、下流域では都市計画に十分配慮し、遊水機能を持った場所に住宅を作らないなど避難するルートや安全な場所の確保。

冠水時の農作物への補償など

#### **委員の意見、想い：No.20**

ごみ投棄のない美しい円山川

ボランティアを募り専用の袋で市町の収集日に出すことができないか。

養父町小城水利組合では、左岸右岸の2ヶ所のポンプ場から大屋川の水を揚水して米づくりをしています。耕地も比較的少なく、地権者57名、面積当り電気代がかさみ採算性から不安に思う人が増えています。利水受益地区の公平性から堤防敷に風力発電を設置し、その電気を売買することにより揚水の電気料金にあてることができないか。私の夢かもしれません。

但馬は山並みの国、間伐を進めて活力のある山から美しい水が円山川に流れ、いつまでも夢のある但馬を次の世代に引き継ぎたいと思います。

#### **委員の意見、想い：No.21**

今六月は深緑、70年間住んでいる土地ですが、日和が良いと窓をいっぱい広げて、緑に感動し雨後の霞に感動する毎日です。

全国的にみると但馬の一部を除いてはごく普通の風景です。特に朝来は円山川の上流ですが平凡な風景です。しかしこの普通の風景が、私たちの子供の頃を思い起すと随分変わってきました。

私たちの子供の頃は、山では栗、いたどり、わらびとり、川遊びは魚を捕るために川をせきとめたりして、様々な工夫をして魚取りをしました。家の軒先を流れる農業用水路は夏になると鮎が泳ぎ、洪水なれば水が引いた後には鯰や大きな鮒が流れこんでいた、大人は風水害は恐いが子供にとっては楽しいものでした。

今の川は三面張りで、蛍などの水性昆虫もいないし、蟹も、しじみも、鮒も、たにし、川えびも棲まない死んだ水路になっています。

住民の財産・生命をまもるための河川工事も大事ですが、自然を大事にした整備ができないかと思いつつ暮らしています。

特に創作活動に関心のある私にとって、朝来町の壊される自然は見るに忍びない思いで、写生や写真に残すべく努力しています。

但馬の中には絵を描いている人がたくさんいます。「但馬円山川を題材にした公募展」を開きたい。子供達にも「我が町の川を描く」などの企画ができたらと思っているときに、円山川流域委員会の呼びかけを見て公募した経緯があります。

私は車で円山川流域を走りながら、八鹿・江原・豊岡・城崎の水辺の風景を車窓から眺めています。四季の変化は色を変え形を変えて私たちに訴えています。四季折々の色をもつ山並みを遠景に、田園風景と水辺の木々、変化ある水の流れ、こんな風景を何としても残すために、四季折々の風景を、絵や映像を通じて再認識したい。こんな想いを大事にする河川整備であってほしい。

**委員の意見、想い：No.22**

回答なし

**委員の意見、想い：No.23**

回答なし